

公表

## 事業所における自己評価総括表 (放課後等デイサービス)

○事業所名	通所支援事業所 あいらいん		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		～ 2026年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年12月19日		～ 2026年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備及び適切な支援の提供の中で、入浴サービスを実施している。	特殊浴槽を使用し、職員が2人体制の上で入浴を行っている。 2人体制で実施することにより、安全にケガへの注意及び湯温の調整、室温の調整等、利用者様が楽しく入浴ができるように声かけ等を行っている。また、発作等の利用者様の状態に合わせて対応するように取り組んでいる。 今年度の取り組みとして、季節を感じてもらうことができるゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を入れた入浴を実施することができた。 移乗介助については、リフトの導入やスライディングシートを活用して移乗を行うことができている。	児童の状態に合わせた取り組みを行うことで楽しく過ごすことができる時間を増やしていく。 移乗介助については、リフトを導入しているが使用頻度がまだまだ少ないため、身体の大きな利用者様には積極的に使用する必要がある。
2	職員の配置、個々の状態に合わせた支援の取り組みの中で、看護職員や専門的支援を行うことができる職員の配置ができている。	医療的ケアの実施、発見した症状等の情報をこまめに記録に残す、利用者様の発作等の状況に合わせて対応するように取り組んでいる。また、理学療法士による機能訓練を実施している。	各利用者様の専門的支援計画の目標を決め、専門的支援の目標や手段等を職員全員で共有し取り組むようにしていく。
3	適切な支援の提供や関係機関や保護者の連携の中で、重症心身障害児が日常生活の中で、個々の状況に合わせて、なかなか経験を重ねることができないことを体験する機会を作っている。	職員間で話し合いを行い、一人ひとりの体の状態や生活の状況に合わせて楽しみ方を考えて提供するようにしている。また、どのような体勢であっても利用者様が楽しく取り組むことができるような工夫を行っている。	社会参加(さまざまな人がいる中での活動等)、外出等、生活している環境の中でのさまざまな体験を重ねていくことができるように取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関や保護者との連携の中で、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制が十分には整えられていないのではないか	医療機関との連携については、特定の病院の地域連携室とは連携システムを導入していることで以前よりも連携はとることができるようになってきているが、なかなかドクターとの連携が図れていないと感じられる。 また、保護者が何を求めているかニーズの把握がうまくできていないのではないか。	保護者からの情報をもとに、主治医との連携を図る必要がある。 また、保護者ともこれまで以上に連携を深め、なんでも相談することができる環境を整えていく必要がある。
2	活動プログラムの立案をチームで行うことができず、偏りが出てしまう。	パート勤務者が多いこともあり、プログラムの立案をチームで話し合う時間を作ることができていない。	短い時間でも話し合う時間を作り、プログラムの立案を行う。また、普段の出勤時間より早めに出勤する日を作り、話し合いの日を作っていく必要がある。
3	地域を含めたイベントの開催及びイベントへの参加等	事業所が主となってイベントを開催するためには、曜日や職員の確保が課題となっている。	自分達で開催する前に地域のイベントや他事業所のイベントへ参加し、地域の社会参加を積極的に取り組む。